『車のいろは空のいろ　白いぼうし』～４年生　２８ページ＜この本、読もう＞～

あまんきみこ　作
北田卓史　絵

主人公はタクシー運転手の松井五郎さんです。松井さんの運転する空のいろのタクシーには、なぜか不思議なお客さんばかり乗ってきます。

ちいさな双子の男の子、おかっぱのかわいい女の子、いろのしろいふっくらとした女の人、わかい男の人、黄色いふかふかのセーターを着た女の子、熊野熊吉さん…？？？みんな普通の人ですって？そうなんです。確かに普通の人達なんです。空のいろのタクシーに乗ってきたときは…

松井さんと不思議な乗客とのお話が、八編収録されています。初版が１９６８年に出版された『白いぼうし』は、お話だけでなく挿絵のや本の雰囲気全体が、どこか懐かしい活版印刷のような雰囲気を醸し出しています。

あまんきみこさんといえばこの作品から１４年後に上梓する「ちいちゃんのかげおくり」という、戦争が題材になっているお話の作者として有名です。この『白いぼうし』に収録されている「すずかけ通り三丁目」も、直接的ではありませんが、戦争を題材にしています。また、「ほん日は雪天なり」は、６年生の教科書に出てくる作家である宮沢賢治の「雪わたり」を彷彿とさせます。

タクシー運転手のおじさんが主人公という設定から、まさかこんなファンタジーのお話を読むことになるとは思いませんでした。でも、空のいろのタクシーなんて現実には見たことなどありませんから、とても特別なタクシーなのでしょう。「松井さん自身が妖精なのかもしれない」読み終わった後に思いました。

- 読むのにかかる時間　一編につき１０分
- 単行本　１１９ページ
- ポプラ社